



祝卒業・新入生歓迎号

歴史のなかの 大学図書館

若松 昭子



学生諸君のなかで『ハリー・ポッター』の映画を知らない人は少ないと思う。映画に登場するホグワーツ魔法魔術学校の図書館は、神秘的で不思議な空間である。しかし、撮影に使われたのは臨時のセットではなく、今も学生や研究者に利用されている本物の大学図書館なのだ。映画を鑑賞した人は、身近にある大学図書館（聖学院大学総合図書館をイメージしてみよう）と比べ、内部の様子が少し違うことに気づくだろう。例えば、閲覧室は他の利用者まで見渡せるような大きく広い部屋ではない、回廊のような長い部屋に書架が横並列に配置されている、個々の書架には閲覧机が接している、その閲覧机も5、6人程度しか座れない小さな机である、時には本が書棚に鎖で繋がれている、などなど。

日本の大学図書館の歴史は、長くてもせいぜい120年程度であるが、ヨーロッパの場合、大学図書館の歴史は12世紀や13世紀にまで遡る。印刷術登場以前の中世において、本は大変貴重であった。本が盗難にあう危険性も大きかったに違いない。しかし、昔も今も、学生の勉学や教授の研究のために資料を提供することは大学図書館の重要な使命である。そこで当時の大学図書館が考え出したのが、すべての本を1冊ごとに鎖で書棚に繋ぐという方法であった。これは、鎖つき図書館（Chained Library）と呼ばれた。

映画撮影に使われた図書館には、このような時代の大学図書館の影響が今も色濃く残っている。例えば、本が書棚に鎖で繋がれている場合、本を持ち運べる距離は鎖の長さまでである。そのため、閲覧机は否応なく書架前に設置されることになる。書架毎に閲覧机を設置する場合、大きなものは用意できない、せいぜい書架幅の長さで奥行

きの短い机となる。

魔法魔術学校の図書館ロケ地の一つとして有名なのが、オックスフォード大学ボドレイ図書館内にあるハンフリー公図書館である。開館が1488年という、オックスフォード大学でも最も歴史ある図書館である。現在の建物は17世紀半ばに建設され、改修工事を経ながら今日まで大切に維持されている。当然ながら、ハンフリー公図書館もかつては鎖つき図書館であった。

印刷本が普及しても鎖つき図書館は消え去ったわけではなく、実際には18世紀後半まで続いた。現在、歴史ある図書館で古い資料を閲覧請求すると、木製の堅牢な表紙に鎖の跡が残っている本が出てくることがある。何世紀も前のどんな人がどんな気持ちでこの本を読んだのだろうかと思像しながら頁を繰る瞬間は、わくわくして実に楽しい。学生諸君も、映画や物語のなかで図書館に出会った時、ぜひ図書館の長い歴史に思いを馳せてみてほしい。

（総合図書館長 政治経済学部政治経済学科教授）



おすすめ本紹介

『図説 図書館の歴史』

スチュアート・A・P・マレー 著

日暮雅通 訳

原書房 2011年 396p.

図書館が、どのように成立し、時代のなかでどのような役割を担ってきたかを、豊富な図版と平易な文章で綴る。図書館の歴史とは、書物と人々が織りなす壮大な歴史であるということを改めて感じとれる楽しい1冊。

